

防衛講演会



講師 佐藤 正久 氏

日時 平成26年5月18日(日)

場所 大分市
(レンブラントホテル大分)

演題 「守るべき人がいる」 (要旨)

安倍内閣は、第1次内閣の反省に基づき、政治・外交政策や経済政策と同様に安全保障政策においても、不退転の決意で取り組んでいる姿を、参議院に籍を置く一人として、実感している。

我が国防衛の現状と課題について、最近の事象を具体的な例として挙げながら、防衛上の法整備の是非は、防衛の現場に派遣される自衛官の行動を適切に律する法整備が、実効性あるものとして整備されているか否か、という観点で精査する必要があり、自衛官が迷わず任務を遂行するためには、まずはグレーゾーン事態やPKO等海外派遣時に自衛隊が取りうる行動が法律上曖昧なままに時間が経過して來たので、これらの分野の法整備が喫緊の課題である。

また、東アジアの安全保障環境は、極めて厳しい状況に置かれているが、九州～沖縄～先島諸島の間は、自衛隊配備の空白地域になっている現状を憂慮している。

現在議論が活発になりつつある集団的自衛権の行使について、一部のマスコミのミスリードもあって、集団的自衛権の行使が、戦争に巻き込まれる危険性を増大させるかのような議論が存在することを憂い、厳しい安全保障環境にあっては、集団的自衛権の行使容認こそが抑止効果を増大させる。

そして、我が国周辺国家の中に安全保障環境の現状変更を試みるなど不穏な動きを企てるような国の存在を考慮すると、防衛上の不備を早急に改善する必要があることを訴えるとともに、参議院議員として防衛政策の進展に努力する。

さらに、国際安全保障環境の変化や自衛隊に対する国民の信頼性の高まりなどの要因から「愛される自衛隊」から「尊敬される自衛隊」に変貌しつつあり、その実現に大きな期待を寄せているとして講演を締めくくった。